

科目名 (科目番号)	生活環境論実習	教員名 沼尾夏葵・他	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
	(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
			授業形態	演習	オフィスアワー	別紙記載	
授業概要	様々な障害を抱える障害者や高齢者と生活環境との関係について、実際に模擬体験を通じ様々なバリアを体感すると同時に、福祉用具や福祉機器を用いた対応や対策、家屋環境改善のポイントについて学習する。						
目的・目標	目的:福祉用具や福祉機器の適応・選択・適合について理解し、障害に応じた環境調整について学ぶ。 目標:障がい者や高齢者をとりまく生活環境のバリア改善に向けた具体的対策と対応を立案・行使できる。						
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと。						
授 業 計 画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	オリエンテーション 生活環境について	到達目標:本演習の概要と生活環境へ介入する重要性が理解できる。 学習内容:本演習の概要説明および障害と生活環境との関係について学習する。				
	2	車いすの機能と適合	到達目標:車いすの特徴、身体採寸およびキャスター上げ技術を習得する。 学習内容:車いすの機能と役割について説明し、身体採寸、キャスター上げ技術について体験する。				
	3	姿勢管理	到達目標:車いすおよびベッドでの姿勢管理が理解できる。 学習内容:安全・安楽な姿勢について、車いすとベッドを用いて学習する。				
	4	車いす体験と介助方法	到達目標:車いす操作による生活環境のバリアを体験し、介助方法を理解する。 学習内容:車いすを操作し、介助方法を学習する。				
	5	実技練習	到達目標:身体採寸・シーティング・キャスター上げ・車いす介助技能を習得する。 学習内容:第2～第4回までの授業を振り返り、実技・技能について再度体験する。				
	6	習得技能の確認①	到達目標:第2～第5回までで習得した各技能について、合格基準に達する。 学習内容:第2～第5回までで習得した各技能について、確認する。				
	7	福祉用具 (歩行補助具)	到達目標:歩行補助具の特徴と使い方について習得する。 学習内容:様々な歩行補助具を使用して、使い方や留意点について学習する。				
	8	福祉用具 (トランスファーボード)	到達目標:トランスファーボードの特徴と使い方について習得する。 学習内容:トランスファーボードを使用した移乗や立ち上がりの介助方法について学習する。				
	9	福祉用具 (手すり)	到達目標:トイレとお風呂場において対象者に適した手すりの位置を設定する。 学習内容:シミュレーターを用いて手すりの位置を学習する。				
	10	高齢者・ブラインド体験	到達目標:高齢者やブラインド障害者の生活環境における不自由な点について理解する。 学習内容:高齢者体験キットを使用して日常生活場面の疑似障害を体験する。				
	11	自助具体験と実技練習	到達目標:自助具の特徴を理解する。福祉用具の適した使い方を習得する。 学習内容:自助具の体験をする。福祉用具の適した使い方を再度学習する。				
	12	習得技能の確認②	到達目標:第7～第9回までで習得した各技能について、合格基準に達する。 学習内容:第7～第9回までで習得した各技能について、確認する。				
	13	高齢者・ブラインド体験発表	学習目標:高齢者・ブラインド障害者体験を通じた学びについて共有する。 学習内容:グループ発表を通じて、日常生活場面の障害について学習する。				
	14	症例検討会	到達目標:紙上患者のニーズに合わせた生活環境について検討する。 学習内容:ニーズの違う3症例を割り振り、生活環境調整案について2人一組で学習する。				
15	症例検討発表・総括	到達目標:紙上患者のニーズに合わせた生活環境調整案について議論を深める。 学習内容:紙上患者のニーズに合わせた生活環境調整案を発表し、議論する。					
成績評価の方法・基準	対面時:実技課題(2回,3回,4回,7回,8回,9回:各5%=30%)、技能確認(6回,12回:各20%=40%)、課題・発表(10回,13回,15回:計30%) オンライン時:授業時の課題(60%)、症例発表課題(40%)						
教科書	Crosslinkリハビリテーションテキスト生活環境学		臼井滋		メジカルビュー社		
参考図書	標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版		編集 鶴見隆正		医学書院		
教員からのメッセージ	必ず動きやすい服装でください。また、ピアスや指輪、ネックレス等のアクセサリーは身に付けしないでください。 授業の進行度合いによって授業内容を変更します。 一般病院等で勤務した経験のある理学療法士がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。						